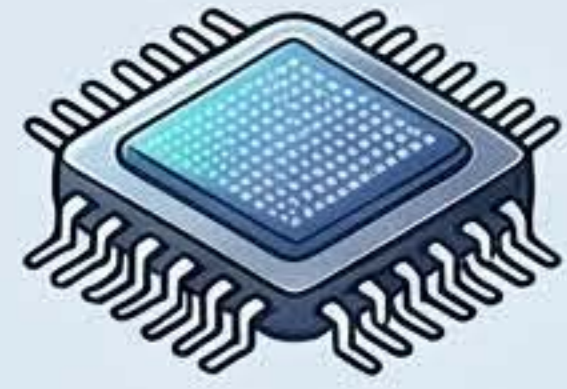


# Kimi K2.7 Code : 技術・コスト・知財リスクの徹底評価ガイド

## 主要スペックと技術的特徴



**1Tパラメータ (アクティブ32B) のMoE構成**  
61層、384エキスパートを備えた大規模な混合専門家 (MoE) モデルであり、接論効率と高性能を両立。



**256Kの超長文脈とマルチモーダル対応**  
大規模なコードベースを一括処理できる長文脈対応に加え、MoonViTによる画像認識でUI設計図やログの解析も可能。



**配布サイズ 595GB の重量級モデル**  
Hugging Faceで重みが公開されているが、リポジトリサイズが巨大なため、セルフホストにはH200等の高性能インフラが必要。



## コスト比較：圧倒的な経済性

**Claude Opusの約1/5~1/6の低単価**  
入力単価\$0.95/MTok、出力単価\$4.00/MTokと、

**Claude Opusの約1/5~1/6の低単価**  
入力単価\$0.95/MTok、出力単価\$4.00/MTokと、主要なフロンティアモデルを大幅に下回る価格設定。



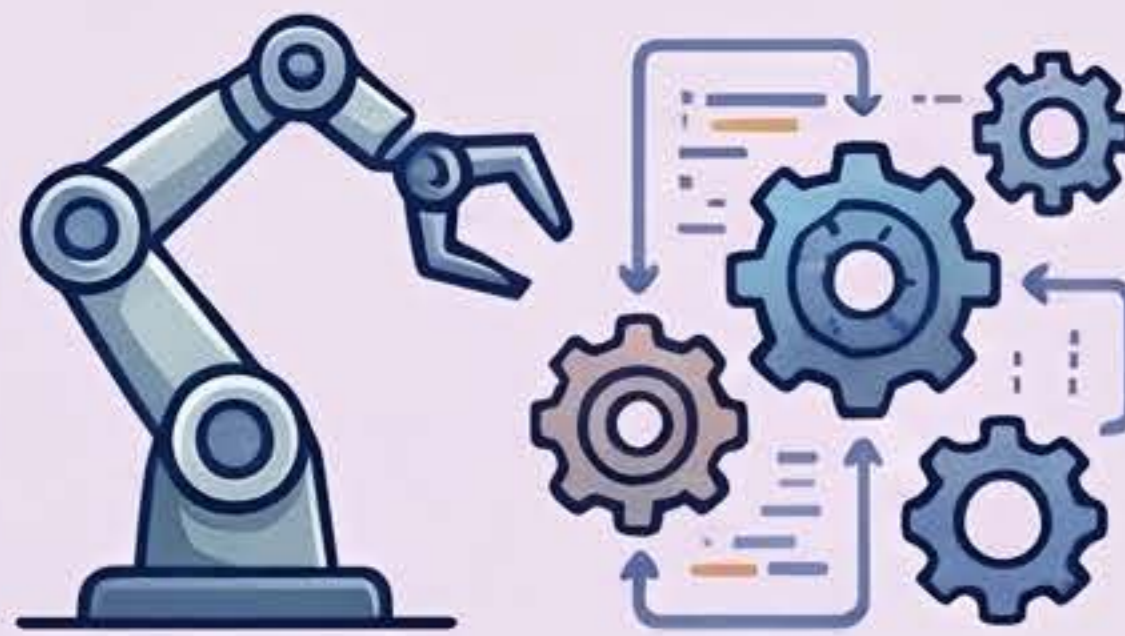
GPT-4oと比較しても60%以上のコスト削減  
100M入力+20M出力の試算で、GPT-4oが\$450に対し、Kimiは\$175と極めて安価。



主要モデルとのAPI価格比較 (1Mトークンあたり)

モデル名	入力単価 (\$)	出力単価 (\$)
<b>Kimi K2.7 Code</b>	<b>0.95</b>	<b>4.00</b>
Claude Opus 4.8	5.00	25.00
GPT-4.1	2.00	8.00
GPT-4o	2.50	10.00

## 性能評価と市場ポジション



**エージェント型タスクに強い評価軸**

単純なコード生成よりも、実務に近い「Program Bench」や「MLS Bench Lite」等の長期タスクでK2.6から大幅な連化を遂げている。



**最上位モデルには一步譲る絶対性能**

性能向上は著しいが、GPT-5.5やClaude Opus 4.8といった最高線のクローズドモデルには、多くの指標で依然として劣後する。

## 知財・法務上の留意点と推奨ワークフロー



**特殊な「Modified MIT」ライセンス**  
月間1億MAUまたは月商2,000万ドル超の大規模サービスでは、UI上での「Kimi K2」表示義務が発生する点に注意。



**出資透明性 (プロペナンス) の不足**  
学習データの詳細な由来や出資追跡インデックスが未公開のため、生成コードの権利関係には慎重な確認が必要。

**「人間中心」の推奨ワークフロー**  
USPTOや著作権局の提計に基づき、AIは下書きや構造化に留め、最終的な「創作的署名」や「承認」は必ず人間が行うべきである。

## 推奨される活用シーン



コード差分の要約・テスト難形作成  
大量に因す必要がある「repo-wide」な分析や、定率的なテストコード生成でコストメリットを最大化。



知財業務の調査トリアージ  
先行技術の要約やクレーム要素のマッピングなど、知財相当者の「下調べ」を高速化するエンジンとして活用。